

「みんなで話そう！姫路の農業」意見交換要旨

● 日 時

令和8年8月24日（月） 10：10～11：50

● 会 場

姫路市役所北別館3階 研修室A

● 参加者

姫路市認定農業者4名

● ファシリテーター

NPO法人テダス 高橋 博樹氏

● 出席者

市長、政策局長、企画政策室長、企画政策室主幹、農政総務課主幹

● 主な意見交換内容

①中山間地域の維持管理と農地インフラについて

《意見》

- ・水路の清掃や草刈りなどは、これまで地域住民の共同活動に依存してきたが、住民の高齢化や過疎化の進行により、維持管理は限界を迎えている。
- ・移住者の中には地域活動を避ける方もおり、水路の清掃や草刈りに参加しないことによるコミュニティとの摩擦が生じている。
- ・ゲリラ豪雨などによる想定を上回る豪雨に伴い、土砂崩れや河川の氾濫が頻発している。個人や地域の一時的な清掃活動だけでは解決できないインフラの老朽化や整備の遅れに直面している。
- ・中山間地域は段々畑が多く、大規模生産型の農業には適していないが、その美しい景色や文化などは日本の財産であると考える。
- ・中山間地域は食料自給率の維持のための法規制により、原則として農地転用ができないようになっており、就農者がいなくなれば、耕作放棄地が増加するという課題を抱えている。

《提案》

- ・地域インフラや景観、文化を守るためにも市、専門家及び地域住民が協働して、中山間地域の将来の構想を打ち出す必要があるのではないかと。
- ・新規就農者が参入しやすい体制と仕組みの構築が必要なのではないかと。

②経営継承について

《意見》

- ・トラクターや田植え機などの農業機械は高価なため、小規模な新規就農者が自己投資で揃えるには初期リスクが高い。

- ・地域の共同作業に一切参加しない事業者が現れたり、外国人が農地を買収した後に実質的な廃棄物置き場として放置したりする事例が発生しかけている。

《提案》

- ・既存の就農者の離農を防ぎ、いかに営農を継続してもらえるか、経営を継承するにあたって、地域の中から担い手を探すのか、あるいは外部から新規就農者を呼び込むのか、具体的に検討する必要があるのではないかな。
- ・移住者が転入する前に、地域特有の慣習を明文化して提示し、合意を得た上で地域コミュニティに加わってもらう仕組みが必要なのではないかな。

③稼げる農業について

《意見》

- ・「稼げる農業」について、自身の家族が不自由なく暮らせるだけの収入を農業から得られることであると考える。あわせて、仕事へのやりがいや楽しさを実感できれば、事業として成功しているといえる。
- ・稼げる農業を実践するためには、マーケティングリサーチが重要である。農産物をそのまま出荷するだけでなく、農家レストラン等の安心で新鮮な農産物を体験価値に転換する6次産業化は、小規模農業の存続と地域活性化に効果的である。
- ・マンゴーなどの付加価値が高い農産物と、飼料米などの栽培に手間がかからない農産物を組み合わせた農業経営を行ってはどうかな。
- ・付加価値の高い農産物ばかりを推進しても、食料自給率の向上にはつながらないのではないかな。
- ・学校給食の調達計画やメニュー決定が直前に行われるため、農産物の供給が困難な場合がある。

《提案》

- ・就農者同士が定期的に情報共有や意見交換を行える場を設けることが望ましい。
- ・学校給食について、市が事前に必要な農産物の品目や数量を提示できれば、農家は計画生産することが可能となり、所得の向上につながるのではないかな。

総括

- ・地域の水路の清掃や草刈りなどは、これまで地域住民の協力で維持されてきているが、住民の高齢化が進み、昨今の猛暑の中での作業には限界が生じている。就農者の皆さんの切実な声から改めて強い危機感を抱いた。
- ・経営継承や地域コミュニティのあり方など、行政においても検討していく必要があると感じた。
- ・今後、人口減少に伴い耕作放棄地が増えることで、鳥獣被害の拡大が予想される。これらを未然に防ぐため、迅速に政策を打ち出す必要があると感じた。